

2026 アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYAビジョン

—— アジアとともに輝く未来へ ——



《特別寄稿》



2026アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYA ビジョン
有識者懇談会 座長

大阪体育大学 学長

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長

原田 宗彦 氏

NAGOYAビジョンに寄せて

現代社会において、アジア・アジアパラ競技大会のような大規模スポーツイベントには、開催都市のスポーツ振興だけでなく、都市が抱える社会課題を解決し、住み良いまちをつくる「触媒」としての力が備わっています。よって2026年の大会に向けた準備段階では、その力を利用して、名古屋市というまちをどのように発展させるのかについて、しっかりとした構想を練る必要があります。本ビジョンは、それぞれの領域の専門家が知恵を絞り、SDGsが目標とする2030年に向けて、名古屋市のあるべき姿を描いたものです。そこでは、活力ある地域で市民が健康に生活し、都市の魅力に誇りを持ち、国際交流と多様性を積極的に受け入れ、イノベーションとテクノロジーによって持続可能な都市へと発展する道筋が示されています。

都市には目標が必要です。本ビジョンに描かれているまちの姿を実現するため、アジア・アジアパラ競技大会を成功させ、そのレガシーを正しい方向に導くことが大切です。有識者会議の座長として、2026アジア・アジアパラ競技大会に向けた本ビジョンが、名古屋市をさらなる発展に導く道標になることを心から願っています。

目 次

1	2026アジア・アジアパラ競技大会NAGAYAビジョンとは…	1
	（1）ビジョンの意義 ……………	1
	（2）ビジョンの位置づけ ……………	1
	（3）アジア・アジアパラ競技大会に関する提言（新たな理念）との関係…	2
	（4）持続可能な開発目標（SDGs）との関係 ……………	2
2	アジア・アジアパラ競技大会を契機としてめざすまちの姿…	3
	（1）健康・地域活力 ……………	5
	（2）魅力・誇り ……………	9
	（3）国際交流・多様性 ……………	15
	（4）イノベーション・持続可能性 ……………	19
3	名古屋市総合計画2028との関係…………	25
	（1）成長の原動力の柱と推進する取り組み…………	25
	（2）「開催に必要」及び「開催に向け重要」な事業の主な取り組み…………	27
参考1	第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会…	28
参考2	用語解説 ……………	31
参考3	策定の経緯 ……………	33
参考4	改訂の経緯 ……………	36

1 2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョンとは

1 | ビジョンの意義

令和8（2026）年に本市及び愛知県において開催される第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会（以下、「アジア・アジアパラ競技大会」という。）は、本市が今まで経験したことのない規模の国際総合スポーツ大会です。

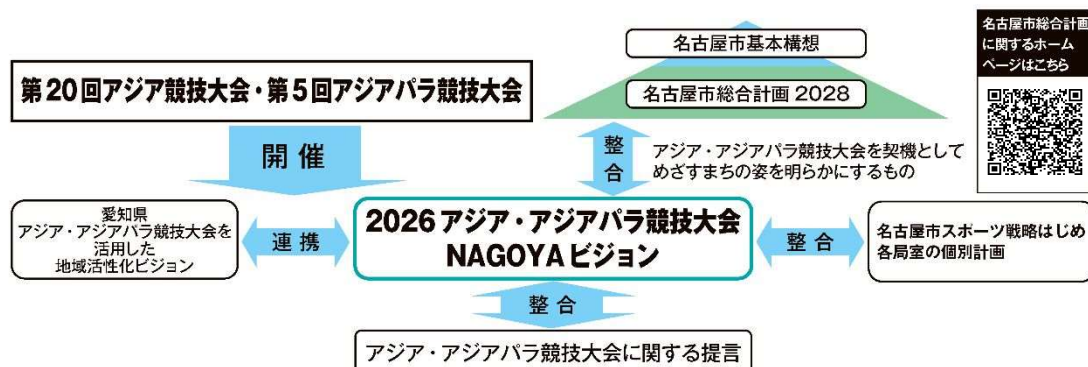
期間中には、過去大会の実績から、選手、監督、コーチなどといった大会関係者や観客など、多くの方々がこの地域を来訪すると見込まれ、経済波及効果をはじめ本市の知名度の向上など、さまざまな効果が期待できます。本市では、アジア・アジアパラ競技大会を一過性のスポーツイベントで終わらせるのではなく、大会の開催効果をスポーツの振興をはじめ、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化、都市環境整備の促進など、さまざまな分野につなげていくことが必要と考えています。

本ビジョンは、大会終了後の2030年頃を見据え、大会の開催を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするために策定しました。

2 | ビジョンの位置づけ

本市のまちづくりの大きな方向性を示す、最上位の計画である「名古屋市総合計画2028」においては、アジア・アジアパラ競技大会の開催とレガシーの形成について、今後本格的な人口減少社会が到来する中で、将来にわたり名古屋大都市圏の活力を維持し、さらなる地域の発展に向けた好循環に繋げていくため、重点戦略のうち特に未来につながる先行投資の要素が強い分野である成長の原動力として位置づけるとともに、長期的展望に立った上で、本市のめざす都市像を描くとともに、その都市像の実現に向けて取り組む施策を明示し、市政を総合的かつ計画的に運営していくこととしています。

本ビジョンは、アジア・アジアパラ競技大会の成功とその先を見据え、大会を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするものとして「名古屋市総合計画2028」と整合をはかりながら一体的に検討（P.25参照）を進めるとともに、「名古屋市スポーツ戦略」などの各局室における関係分野にかかる個別計画との整合も考慮して策定したものです。また、愛知県が策定した「アジア・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」とも連携を図っています。



3 | アジア・アジアパラ競技大会に関する提言（新たな理念）との関係

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を経て、大規模な国際スポーツ大会の開催意義が問われている中で、アジア・アジアパラ競技大会が市民などから支持される大会になるよう事業モデルをイノベーションし、時代のニーズに応えた大会開催を目指していく必要がある。大会に期待される役割を改めて整理した上で、大会を契機に地域が目指す新たな理念が令和6年3月に提言され、本ビジョンにおいてもその理念等を踏まえて策定しました。

【新たな理念】

アジアの 子どもの 未来の ために
(A better future for Asia, a better world for Children)

※「様々な社会課題を解決し、社会の変容につなげていくことで、子どもの未来につなげる」などのメッセージが込められています。

4 | 持続可能な開発目標（SDGs）との関係

国際連合では、第70回国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、SDGsの17の目標とそれぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、スポーツがその役割を果たすことを期待し、以下のように記載しています。

スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発及び平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。

こうしたスポーツを取り巻く国際的な潮流を鑑み、アジア・アジアパラ競技大会を契機としてめざすまちの姿を明らかにする本ビジョンにおいても、SDGsの理念「誰一人取り残さない」を踏まえて策定しました。

SDGsとは

SDGsとは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。

2030アジェンダに関する
ホームページはこちら



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2026

アジア・ アジアパラ競技大会を 契機として めざすまちの姿

CONCEPT [コンセプト]

夢や希望をはぐくみ、 誰もが自分らしく生きる

- ◆アジア最大のスポーツの祭典を通じて、
かけがえのない記憶と感動が夢と希望をはぐくみ、
誇りと活力に満ち溢れた都市の姿を
未来へつなぎます。
- ◆住む人も、訪れる人も、
誰もが自分らしく生きるまちをめざします。

アジアとともに歩み、 更なる飛躍を遂げる

- ◆SDGsの理念を踏まえるとともに、
アジアをはじめとする世界の人々との
相互理解を推進し、
アジアとともに歩む姿を示します。
- ◆大会への取り組みを本市の飛躍へつなげ、
持続的に発展する国際都市をめざします。

1

健康・地域活力
P.5



2

魅力・誇り
P.9



リニア開業により更に拠点性の向上が
期待される広域的ネットワークの中心

多くのトップ・スポーツ
チームのホームタウン



魅力的な観光資源と
拡大する交流人口



(NAGOYAビジョン)

3

国際交流・多様性

P.15

4

イノベーション・
持続可能性

P.19



第20回アジア競技大会の開催

2026年 9月19日(土)ー10月4日(日)



第5回アジアパラ競技大会の開催

2026年 10月18日(土)ー10月24日(土)



名古屋市が持つポテンシャル



世界レベルの産業技術の
集積による強い経済力



全ての市民が便利で
快適な住みやすいまち



多様な外国人が在住

スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会を契機として、躍動するアスリートの姿を観ることでスポーツへの関心がより高まり、大会で実施されるアジア特有の競技を含む多種多様なスポーツを知ることで、スポーツは競技だけではなく、散歩やダンス、健康体操、サイクリングなど文化としての幅広い概念であり、一部の人のものではない「みんなのもの」という意識が浸透し、スポーツを日常生活の中に位置付けることができるようになっていきます。

このように、スポーツは年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず誰もが参画できるものであり、すべての人がその適性や関心に応じて、楽しみながら日常的・自発的にスポーツを継続して親しむことで、子どもの健やかな心身を育むとともに、生活習慣病の予防・改善や介護予防に繋がり、市民の心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現し、健康長寿が実現したまちとなります。

また、スポーツ大会やトップアスリートとの交流、各種イベントの実施、さらには、ボランティアをはじめとする市民活動への参加意欲の高まりによる市民の社会貢献が定着することで、地域の一体感が高まり、活力に満ちたまちが実現しています。

■ 取り組みの方向性

1 アクティブライフの推進、健康増進

2 子どものスポーツの充実

3 地域活性化、市民活動の促進

FUN+WALK PROJECT

どうせ歩くなら「楽しく歩きましょう」。スポーツ庁では、働き盛りの人に「歩きやすい服装」で通勤・勤務するプロジェクトに取り組んでいます。また、楽しく歩くきっかけづくりとなる「アプリ」（歩数に応じたゲーム機能やクーポン獲得）も提供しています。

毎日の通勤を少し工夫することで、一日の滑り出しがスムーズになり、ついつい歩いてしまうこともあるかもしれません。この「ついつい」が大切なのです。「気持ちがよく気がつけば歩いていた」となれば、その習慣はきっと長続きするでしょう。

スポーツ庁では、働き盛りの方のスポーツ参画人口拡大を通じて国民の健康増進を図る官民連携プロジェクト「FUN+WALK PROJECT」を推進しています。歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものに変えていく本プロジェクトにおいて、スポーツ参画人口の拡大を通じて国民の健康増進を目指しています。

（引用：スポーツ庁Web広報マガジン「DEPORTARE」～数字でみる！たった「10」分プラスで病気が防げる？）

歩くことを「もっと楽しく」に変えていくプロジェクト
FUN+WALK PROJECT



スポーツ庁Web
広報マガジンのホ
ームページはこちら



■ 取り組みの方向性

1 アクティブライフの推進、健康増進

大会の開催により、市民にとってスポーツが身近なものであるという意識が浸透し、誰もが生涯にわたって気軽に楽しくスポーツに親しみ、活動的で充実した生活を送ることができる土壌を創出することで、より多くの市民の習慣的な身体活動を促進し、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じた健康寿命の延伸をはかります。

○主な取り組み

スポーツ実施機会の提供等（スポーツ実施機会の提供・スポーツセンター等の運営）【スポーツ市民局】

すべての市民が、「楽しさ」や「喜び」を感じながら、スポーツへ自発的に参画する機会を創出するため、スポーティブ・ライフ月間をはじめとしたイベントの実施や、市民スポーツ祭等の大会の開催、トップスポーツチーム等の関係団体と連携協働し、体験イベントを実施するほか、将来のスポーツの担い手であるジュニアアスリートへの支援を実施します。また、地域スポーツを支援するため、拠点施設であるスポーツセンター等の運営や計画的な修繕等を実施します。



スポーティブ・ライフ in 瑞穂

障害者スポーツの振興【スポーツ市民局】

アジアパラ競技大会の開催を契機に、障害者スポーツのより一層の振興を図るとともに、障害の有無に関わらず、スポーツに取り組むことができる共生社会の実現に向け、障害者スポーツセンターを中心に、障害者のスポーツ実施環境の整備や市民の障害者スポーツの理解促進・普及啓発、ささえる人材の育成・確保を行うほか、競技力向上を目的とした支援を実施します。



車いすバスケットボール体験

健康増進事業及び受動喫煙対策の推進【健康福祉局】

市民の健康寿命の延伸及び生活の質の向上を図るため、栄養・食生活、身体活動・運動などに関する支援や普及啓発などの健康増進事業を総合的に推進するほか、受動喫煙を防止するための対策を推進するとともに、企業に対して健康経営に関する支援を実施します。



喫煙時の配慮義務ポスター

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策5	生涯にわたる心身両面の健康づくりを支援します
施策40	スポーツを活かしたまちづくりを進めます

2

子どものスポーツの充実

大会を通じて、トップアスリートたちが不断の努力を重ね、活躍する姿を間近に見ることで、子どもたちがスポーツの素晴らしさを感じ、スポーツへの関心を高めるとともに、大会で行われる多様な競技を知ることによってスポーツが身近で楽しいものであるという意識が浸透します。

そうした経験を通じて、子どもがスポーツを楽しむことで心身ともに健全に発達・成長し、生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるよう、運動習慣の確立をはかるとともに、学校での体育活動や地域における運動機会の充実に取り組みます。

○主な取り組み

子どもの運動・文化活動の振興【教育委員会】

子どもの豊かな心と健やかな体を育成するため、小学生の放課後における教員が指導しない運動・文化活動及び中学校・高等学校において部活動外部顧問・外部指導者の派遣などを実施するとともに、中学校部活動の地域の活用も含めた見直しを実施します。



放課後の運動

元氣いっぱい子ども育成事業の推進【教育委員会】

子どもの運動習慣を形成するため、環境整備や体育の授業研修の充実等、体力・運動能力の向上に向けた取り組みを実施します。



元気に遊ぶなごやっ子

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策16

子どもの確かな学力や豊かな心、健やかな体を育み、社会で活躍する力を伸ばします

日本で一番子どもを応援！

本市では、子どもは生まれながらにして一人ひとりがかけがえのない存在であるという認識のもと、子どもの権利を保障するとともに、さまざまな悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に支援するため、子どもの目の進路にとどまらず将来の針路を応援し、子ども自身が自分で職業だけでなく生涯を通じたライフプランを描けるよう発達段階に応じた支援に取り組むなど、子どもの尊厳を守り、子どもが健やかに成長できる社会の実現に向けて取り組んでいます。



ナゴヤ子ども応援大綱に関するホームページはこちら



3 地域活性化、市民活動の促進

大会を契機として、大会の実施競技である新たなスポーツの振興を図り、アーバンスポーツ大会の開催やeスポーツ体験会などを通じて、アスリートとの交流などにより地域の活性化を促進します。

また、アジア・アジアパラ競技大会をはじめとした大規模競技大会におけるスポーツ・ボランティアなどスポーツをささえる機会への参加を通じて、市民活動への関心を高め、身近な地域活動に主体的に関わる機運を醸成します。

○主な取り組み

新たなスポーツの振興【スポーツ市民局】

アジア競技大会で新しく正式種目として採用されたアーバンスポーツやeスポーツなどの振興により都市ブランドの向上や地域活性化を図るため、アーバンスポーツ大会の開催や社会課題の解決に向けたeスポーツ体験会などを実施します。



eスポーツ体験会

地域コミュニティ活性化の推進【スポーツ市民局】

地域コミュニティの活性化を図るため、社会環境の変化にあわせたそのあり方について検討するとともに、地域団体等への新たな担い手を確保するための活動支援として、コミュニティサポーター制度の充実や大学・企業等との連携支援、若い世代の地域活動への参加促進、地域活動におけるICTの活用推進などを実施します。



学区運動会

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策4	地域のつながりを深めることや地域活動を総合的に支援します
施策40	スポーツを活かしたまちづくりを進めます

○名古屋市総合計画2028におけるまちの姿の実現に向けた主な成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2028年度)
健康寿命	男性 79.65年 女性 84.35年 (令和4年)	平均寿命の延びを上回るよう延伸
運動をすることが好きな子どもの割合	小 61.8% 中 51.0%	小 66% 中 56%

スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして確立されるとともに、名古屋の魅力が国内外に発信されることで、にぎわいあふれ市民が誇りをもてる都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会の開催を契機に、継続的な大規模競技大会の誘致やトップアスリートの輩出につながり、スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして国内外から認識され、市民が世界的なスポーツイベントを身近に体験することで、名古屋に対する市民の誇りと愛着が高いまちとなっています。

また、アジア・アジアパラ競技大会の開催を契機に、名古屋が「住みやすい」「働きやすい」「訪れたくなる」「投資したくなる」都市として人や企業から選ばれるために、スポーツにとどまらず、名古屋の充実した都市基盤や市民サービス、経済的な豊かさ、歴史・文化芸術を中心とした観光資源や食文化などの名古屋の魅力が国内外に発信（シティプロモーション）されることにより、名古屋の都市ブランドが浸透、確立され、本市への来訪を目的とした旅行者が増加し、にぎわいにあふれるとともに、大会を契機としてホスピタリティが向上し、本市を訪れる人を受け入れる環境が整った来訪者へのおもてなしが充実したまちが実現しています。

取り組みの方向性

- 1 スポーツを活かした魅力の創出・発信
- 2 大規模競技大会・イベントの誘致・開催
- 3 アスリートへの支援
- 4 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信
- 5 インバウンドの促進、受入環境の整備

につぼんど真ん中祭り～名古屋の夏の風物詩～

日本のど真ん中、真夏の名古屋を舞台に繰り広げる日本最大級の踊りの祭典にして、国内外から集結する約 200 チーム20,000人が地域色豊かな踊りを披露する、誰でも参加できる市民参加型の新しいスタイルのお祭りです。

4日間の来場者数は約200万人の観客動員を数え、名古屋の街は華やかなお祭り一色に。

それぞれのチームが情緒ある地域文化をリズムカルにアレンジした音楽にのせて、華やかな衣装や目を見張るほどの演出を繰り広げます。

「観客動員ゼロ＝全員参加型」の祭りをコンセプトに掲げるとまつり。中でも参加者も観客も一緒に踊りが楽しめる、どまつり名物「総踊り」では、2010年にギネス世界記録™ "世界一の総踊り"として認定されました。



につぼんど真ん中
祭りホームページ
はこちら



■ 取り組みの方向性

1 スポーツを活かした魅力の創出・発信

大会の開催成功が、市民にとっての誇りの一つとなるとともに、これまで積み上げてきた名古屋のブランド力に加え「スポーツ」が本市のイメージを構成する新しい魅力の一つとなり、市内に拠点を置くプロスポーツチームが多く存在するなど本市が有するスポーツコンテンツを活用したスポーツプロモーションやスポーツツーリズムを促進することで、本市の魅力の創出・発信につなげます。

○主な取り組み

スポーツプロモーションの実施【スポーツ市民局】

スポーツによる都市ブランドの向上のため、アジア・アジアパラ競技大会及び大会後を見据えたスポーツプロモーションを実施するほか、新たなスポーツ情報サイトの構築やスポーツ広報大使(仮称)を活用した情報発信などを実施します。



スポーツプロモーション

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策40	スポーツを ^い 活かしたまちづくりを進めます
------	-----------------------------------

名古屋市スポーツ戦略 ～スポーツで名古屋の未来を照らす～

＜基本理念＞ 「スポーツで名古屋の未来を照らす」

人を惹きつける力、熱中させる力のあるスポーツを活かし、名古屋の明るい未来を描きます。スポーツによる地域の活性化と都市ブランドの向上を目指すことにより、にぎわいあふれ市民が誇りを持てる都市、活力ある都市を実現します。

＜名古屋スポーツコミッションによる新たな取り組み＞

「名古屋市の特色を活かしたスポーツによる地域の活性化、都市ブランドの向上」を目指します。



名古屋スポーツコミッション

名古屋スポーツコミッションは、豊富なトップスポーツチームや大規模大会の開催が可能な施設を有するという名古屋市の強みを活かし、スポーツの持つ幅広い価値を、都市ブランドの向上、地域の活性化をはじめとした名古屋市を取り巻く課題の解決に繋げる取り組みを進める官民連携の組織です。

ジュニア年代の国内強豪チームが集う「名古屋ジュニアサッカー大会」の開催やナゴヤドーム前矢田駅の中日ドラゴンズ壁面パネル、久屋大通の名古屋グランパスバナーの掲出といったシティドレッシングなどに取り組んでいます。

今後はアジア・アジアパラ競技大会の機運醸成と開催後のレガシーの活用にも、積極的に取り組むことが必要とされています。



名古屋スポーツ
コミッションホーム
ページはこちら

2 大規模競技大会・イベントの誘致・開催

大会の開催に向けて、多くの市民や民間事業者などが幅広く参加できる多様な取り組みを通じて、名古屋のまち全体で一体となって機運を醸成し、大会の成功に寄与します。

また、アジア・アジアパラ競技大会を開催する本市をスポーツコンベンションの場として位置付け、国内外にプロモーションし、大規模競技大会・イベントの誘致・開催を行うことで都市ブランドの向上や都市活力の活性化につなげます。

○主な取り組み

大規模競技大会等の誘致・開催【スポーツ市民局】

スポーツによる交流人口の増加や地域の活性化のため、世界規模のマラソンフェスティバルを開催するほか、大規模競技大会等の誘致・開催、スポーツツーリズムの促進を実施します。



マラソンフェスティバル
ナゴヤ・愛知

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策40	スポーツを活かしたまちづくりを進めます
------	---------------------

3 アスリートへの支援

大会コンセプトの一つである「アスリートセンタードの視点」を持ち、アスリートを支える環境を整えるとともに、アジア・アジアパラ競技大会をはじめとする国際大会で活躍する地元出身の選手の養成に向けて、将来トップアスリートとなり得るジュニア選手への支援を関係団体と協力しながら行います。

○主な取り組み

あいちトップアスリートアカデミー(スポーツ実施機会の提供)【スポーツ市民局】

アジア・アジアパラ競技大会の盛り上げをはかるとともに、スポーツを活かしたまちづくりに寄与する事業として、アジア・アジアパラ競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍できる地元選手の発掘及び育成を推進します。

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策40	スポーツを活かしたまちづくりを進めます
------	---------------------

4

名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信

スポーツだけでなく、文化の祭典でもあるアジア・アジアパラ競技大会において、本市を訪れる人が、スポーツにとどまらず、歴史・文化・芸術・エンターテインメントなど国内外に誇る魅力を体感できるよう、本市が有する魅力資源の磨き上げや掘り起こしを進めるとともに、戦略的な観光プロモーションを推進し、本市の魅力を世界に向けて発信します。

○主な取り組み

名城エリアにおける観光推進（名古屋城の整備・名古屋城の魅力向上推進）
【観光文化交流局】

アジア・アジアパラ競技大会の開催やリニア中央新幹線の開業等を見据えて、名城エリアを名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツ拠点とすることを目指すとともに、尾張名古屋のシンボルである名古屋城の歴史的・文化的な価値を伝えるために、その魅力を一層高め、後世に継承すべく、文化財の保存整備や、多彩なイベントの開催及び観覧環境の充実にに向けた取り組みなどを実施します。



名古屋城

うるおいと活気のある堀川・新堀川の再生【緑政土木局】

水辺空間に親しむ機会を増やすため、民産学官の協働により、河川空間を利活用することでにぎわいづくりや水質浄化を進め、良好な水辺空間の形成を推進します。



堀川クルーズ

名古屋フィルハーモニー交響楽団に対する活動支援の充実【観光文化交流局】

交響管弦楽による音楽芸術の普及向上を図り、文化の発展に寄与するため、定期的な演奏事業等とともに、魅力向上事業として、一層市民に親しまれ、アジアをはじめ、世界に誇れるオーケストラとなるような取り組みを支援します。



名古屋フィルハーモニー交響楽団

コスプレホストタウンの推進【観光文化交流局】

誰もがコスプレを楽しめるまちをめざし、新たな観光モデルの確立を推進するため、コスプレホストタウンPR隊による市民への啓発、受入機運醸成を図るとともに、コスプレを楽しめるという本市のイメージの向上を図るためのプロモーションを実施します。



世界コスプレサミット

東山動植物園の再生【緑政土木局】

世界に誇れる動植物園をめざすため、展示、環境教育、種の保存、調査研究を強化推進します。



スマトラトラ「アオ」

観光プロモーションの推進【観光文化交流局】

国内外からの観光客誘致を図るため、本市における魅力あふれる観光資源や文化・歴史を活用し、観光展への出展やプロモーションツールの作成等を行うとともに、アジア・アジアパラ競技大会に向け、滞在時間や観光消費額の増加を図るため、本市における宿泊を促進させるインバウンド向け観光コンテンツの造成・プロモーションを実施します。



名古屋駅周辺ビル群と名古屋城

なごやめし～みんなに愛されるご当地グルメ～

「なごやめし」は、名古屋及びその近郊で広く受け入れられ、愛されてきたこの地域独特のメニューです。バリエーション豊かな点が大きな特徴で、代表的なメニューとして「味噌煮込みうどん」、「ひつまぶし」、「味噌カツ」、「手羽先」、「きしめん」、「あんかけスパ」、「ういろう（ういろう）」などがあります。特に、大豆と塩だけを原料とする豆味噌を使った、旨みの濃い料理が多いことが特徴です。

「なごやめし」という言葉は、平成12（2000）年に名古屋の飲食店企業が東京に進出した際、名古屋の郷土料理を取材しに来た東京のマスコミと飲食店企業のやりとりのなかで生まれました。

平成17（2005）年に開催された愛・地球博を契機として全国的に認知度が高まったことなどを受け、平成27（2015）年、「なごやめし普及促進協議会」を設立し、「なごやめし」のPR及びその魅力を活用した国内外からの観光客の誘致に積極的に取り組んでいます。

なごやめし普及促進協議会ホームページはこちら



○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策34	世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます
施策38	歴史・文化に根ざした魅力向上を図ります
施策39	観光・MICEの推進と情報発信により交流を促進します

5 インバウンドの促進、受入環境の整備

戦略的なプロモーションを推進し、国内のみならず世界中から本市を目的地として選んでもらうとともに、本市をゲートウェイとして日本各地を訪れてもらえるよう、インバウンドの促進に取り組み、交流人口の増加をはかります。

また、国内外から訪れたすべての人がストレスなく、快適に滞在し、観光を満喫できるように、ハード・ソフト両面から受入環境の整備を進めます。

○主な取り組み

インバウンドの促進・受入環境の整備（海外からの観光客誘致の推進、高級ホテルの立地促進、宿泊施設のバリアフリー化推進）【観光文化交流局・住宅都市局】

アジア・アジアパラ競技大会を契機に、海外からの観光客の誘致を一層促進するため、ターゲット市場別調査等を行い、名古屋の観光魅力を活かしたプロモーション事業を実施するとともに、他自治体等と連携した広域観光を推進します。

あわせて、アジア・アジアパラ競技大会を見据え、ハイレベルな国際会議の開催や海外の富裕層旅行者等の誘致及び都市のブランド力向上に資するよう、愛知県と連携して一定の基準を満たすホテルに対し補助金を交付する制度の運用や、誰もが安全で快適な宿泊施設を利用できる環境整備を推進するため、宿泊施設のバリアフリー化に必要な経費に対する助成を実施するほか、宿泊施設の建築におけるバリアフリー化に関する基準を制定します。



オアシス 21

中部国際空港の機能強化及び利用促進【総務局】

中部国際空港の国際的・広域的機能を強化するため、第二滑走路をはじめとする空港の機能強化を推進しつつ、関係団体とともに空港の利用促進や航空会社へのエアポートセールスなど、航空路線の拡充に向けた取り組みを実施します。



中部国際空港
(中部国際空港株式会社提供)

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策3	バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりを総合的に進めます
施策34	世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます
施策39	観光・M I C E ^{マ イ ス} の推進と情報発信により交流を促進します

○名古屋市総合計画2028におけるまちの姿の実現に向けた主な成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2028年度)
名古屋市に「スポーツが盛んである」という都市イメージを持つ市民の割合	59.6%	80%
外国人宿泊者数	183万人 (令和5年)	400万人 (令和10年)

大会で、アジアをはじめとした諸外国や多様な人々との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚を備え、多様性に理解を示す市民が増えるとともに、国際社会で活躍する人材が育ち・集う、開かれた都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会を契機に、スポーツや文化など幅広い分野で国際交流や国際貢献を推進することにより、過去に大会を開催した都市などアジアをはじめとする諸外国との都市間ネットワークが強くなっています。

将来を担う若者たちが、諸外国の人との出会いや交流を通じて、国際感覚と世界に挑戦する意欲を高め、国際社会に貢献できるグローバル人材として成長しています。また、グローバル社会の中で夢をもって生きる子どもが育成されるとともに、世界で活躍する人材が国内外から集うまちとなっています。

さらに、年齢、性別、障害の有無、国籍、宗教、文化的差異などを超えた多様な交流により、国際感覚が養われ、多様性（ダイバーシティ）への理解が深まり、互いに支え合うことにより、全ての市民が暮らしやすい共生社会が実現しています。

■ 取り組みの方向性

1 国際交流の推進

2 グローバル社会の中で活躍できる人材の育成・確保

3 共生社会の推進

アジアとの交流

本市では、アジアをはじめとする外国諸都市との交流を促進するため、分野を特定した都市間の連携を行う新たな都市間提携（パートナー都市連携）を推進しています。

<目的>

○アジアをはじめとする外国諸都市と分野を特定した都市間の連携を行います。

<内容>

○包括的な交流でなく、特定の分野において実益をもたらすものとします。

○特定分野の交流を行うとともに、交流の発展をめざした新たな分野における交流を検討していきます。

○継続的かつ将来的な発展が見込まれるものを対象とします。

パートナー都市連携の促進
に向けた取り組みに関する
ホームページはこちら



タシケント市（ウズベキスタン）との交流会

■ 取り組みの方向性

1

国際交流の推進

大会を契機として、国際的に開かれたまちとなるため、アジア・アジアパラ競技大会の先催都市やアジアの諸都市との都市間交流を推進します。

また、自動車をはじめさまざまな分野で世界レベルの産業技術が集積する日本のものづくり産業の中核となっているといった本市の持つポテンシャルを活かし、大学や産業界が主体となったアジア諸国との様々な分野での交流や国際貢献活動を促進するなど、産・学・官が一体となって、目覚ましい発展を遂げるアジア諸国とのさらなるネットワーク強化に取り組みます。

○主な取り組み

外国諸都市との交流推進【観光文化交流局】

都市とのつながりを深め、市民の国際感覚の醸成を図るため、幅広い交流を通じて両市民の相互理解と友好親善を促進する姉妹友好都市交流を実施するとともに、周年記念事業を契機としてより一層の友好親善と交流を促進し、アジア・アジアパラ競技大会の開催による交流機運の高揚を見据えた、アジアを中心とした都市と分野を特定した交流を行うパートナー都市連携など、外国諸都市との交流を推進します。



姉妹友好都市との交流の様子

市立大学における受け入れ環境・支援体制の整備を通じた国際的に開かれたまちづくりの推進【総務局】

世界から人や企業をひきつけるまちづくりに貢献するため、市立大学において留学生・研究者の受け入れ環境や支援体制の整備を行うとともに、グローバル人材の育成や国際的な共同研究の活性化による、留学生・研究者の派遣・受け入れを促進します。



留学生交流会

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策35	国際的に開かれたまちづくりを進めます
------	--------------------

2

グローバル社会の中で活躍できる人材の育成・確保

大会を契機として、国際社会で通用する知識とコミュニケーション能力を身に着けた次世代を担うグローバル人材を育成するとともに、社会や人生をより良いものにしようと自ら考え、多様な他者と協働していくことのできる、新しい時代に求められる資質・能力が育まれるよう、子ども一人ひとりの個性を大切にしたきめ細かな教育を推進します。

○主な取り組み

ナゴヤ・スクール・イノベーション事業の推進【教育委員会】

ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもを育むため、大人が子どもに伴走し、「子ども中心の学び」を進める学校づくりを推進します。



グローバル人材育成の推進【教育委員会】

グローバルな視点及び郷土愛などを育むため、文化芸術にふれる活動や、グローバル環境を体験する活動などを実施します。



グローバル人材育成の推進
(マレーシアの幼稚園にて)

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策16	子どもの確かな学力や豊かな心、健やかな体を育み、社会で活躍する力を伸ばします
------	--

3 共生社会の推進

大会を開催する都市として、すべての市民が年齢、性別、障害の有無、国籍、宗教、文化的差異などの多様性（ダイバーシティ）を認め合い、誰もが安心・安全・快適に暮らせるようハード・ソフト面の両面で、多様性への理解の促進に取り組むとともに、バリアフリーのまちづくりを進めます。

○主な取り組み

アジア・アジアパラ競技大会に向けたバリアフリー整備【総務局はじめ関係局】

アジア・アジアパラ競技大会の会場へのアクセスルート等について、大会の円滑な開催及び大会後の活用を見据え、すべての人が安心・安全・快適に利用できるよう整備を実施します。



バリアフリー調査

バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進（バリアフリーのまちづくりの推進、重点整備地区のバリアフリー化の推進、ユニバーサルデザインタクシーの導入補助）【健康福祉局】

高齢者、障害者をはじめ市民の誰もが安全で快適に生活しやすく活動しやすい都市環境を築くため、ハード・ソフト両面からのバリアフリー・ユニバーサルデザイン化を推進します。また、アジア・アジアパラ競技大会に向け、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点を踏まえながら、旅客施設とその周辺の道路、駅前広場などの一体的な整備の実施やユニバーサルデザインタクシーの導入を促進します。



福祉都市環境整備指針
～人にやさしいまち名古屋をめざして～



福祉都市環境整備指針

障害と障害者理解の推進【健康福祉局】

市民・事業者が、障害及び障害のある人への理解を深めるとともに、社会にある障壁（バリア）を取り除くための配慮やサポート方法等を学ぶことができるよう、啓発イベントの開催や学びの機会の提供、「あいサポート運動」の導入などを通じ、意識のバリアフリーを推進します。



あいサポート運動

ジェンダー平等の総合的な推進（多様な生き方への理解促進、男女平等参画の意識啓発の実施）【スポーツ市民局】

多様な生き方や性のあり方に対する差別や偏見を解消し、当事者の生きづらさを解消するため、意識啓発、専門相談及び、名古屋市ファミリーシップ制度を実施します。

また、男女平等参画について幅広い市民に対して理解の定着を図るため男女平等参画推進センターをはじめ、あらゆる機会を通じて意識啓発や教育・学習を推進します。



性的少数者の方々への理解や支援の意思を表明する名古屋市の「アライマーク」

地域における情報の多言語化【観光文化交流局】

アジア地域の出身者を中心に近年増加している外国人市民に必要な情報を伝えるため、多様な言語・手段による情報提供を行うとともに、外国人市民が身近に相談できる環境を整備します。



外国人相談窓口

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策1	人権が尊重され差別や偏見がない社会をつくります
施策2	ジェンダー平等を総合的に進めます
施策3	バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりを総合的に進めます
施策10	多文化共生を進めます

○名古屋市総合計画2028におけるまちの姿の実現に向けた主な成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2028年度)
本市と姉妹友好都市及びパートナー都市との交流事業件数	58件	70件
高齢者や障害者、子どもを連れた人などすべての人に使いやすい施設整備がされていると感じる市民の割合	48.8%	60%

大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会で拡大する交流人口を引き継ぐため、競技施設や交通ネットワークをはじめとする都市基盤について、リニア中央新幹線の開業を見据えるとともに、SDGsの理念を踏まえ、社会課題に対応した整備を進め、大会終了後もまちづくりやにぎわいの拠点になります。

また、安心・安全な大会運営を通じて危機管理体制が充実するなど、ハード・ソフトの両面から都市機能が強化され、大会の運営基盤やノウハウが蓄積されます。

さらに、大会で活用された先端技術が産業や市民生活に広く普及され、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化など、脱炭素で循環型のまちづくりが促進され、強い産業力に加え、環境にも配慮されたまちが実現しています。

こうした取り組みが、大会モデルとして未来へ引き継がれるとともに、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能なまちとなっています。

■ 取り組みの方向性

- 1 大会モデルの構築
- 2 大会後の活用を見据えた施設整備
- 3 利便性や防災性、危機管理体制を備えた都市機能の強化
- 4 イノベーションの創出、先端技術の活用・普及

リニア中央新幹線の開業

リニア中央新幹線により、東京から名古屋への移動時間が現在の約100分から約40分へ大幅に短縮されます。その後、東京から大阪までの全線開業が見込まれており、東京・名古屋・大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、7,000万人規模の世界最大の人口を有する巨大交流圏を形成します。これにより、東京・大阪それぞれに人口、経済活動が吸い取られるストロー現象に陥る懸念がある一方、交流機会の増加に伴う新たなイノベーションの創出、時間と場所からの解放による働き方や暮らし方の多様化、海外からの人や投資の呼び込み、交通ネットワークの多重性・代替性強化や東京に集中する人口及び企業の中核機能等の分散による災害リスク低減などの効果が期待されています。

リニア中央新幹線の開業に向けた都心まちづくりに関するホームページはこちら



■取り組みの方向性

1 大会モデルの構築

質素・簡素・機能的・合理的な大会運営を行うことにより、国際総合スポーツ大会における名古屋モデルを構築し、大会の運営基盤やノウハウを本市に蓄積します。また、グリーンインフラの考え方を踏まえた取り組みを進めるとともに、先端技術の進展などの時代の潮流を見据え、再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの推進など、環境にやさしい脱炭素で循環型のまちづくりを進めます。

○主な取り組み

大会モデルの構築（アジア・アジアパラ競技大会の推進、アジア・アジアパラ競技大会に向けた機運醸成等に関する本市の取り組み）【総務局はじめ関係局】

質素・簡素・機能的・合理的な大会運営をめざし、今後の先進技術の進展など、時代の潮流を見据えながら、開催都市としての運営準備を進めます。

水素エネルギーの利活用の推進【環境局】

利用段階で二酸化炭素を排出しない水素エネルギーの利用拡大を図るため、燃料電池自動車・バスの普及啓発や導入促進、水素ステーションの整備促進などを実施します。



第19回杭州アジア競技大会開会式
©OCA



次世代自動車の展示

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策30	身近な自然や農にふれあえる環境をつくります
施策32	脱炭素社会の実現に向けたまちづくりを進めます
施策33	循環型都市づくりを進めます
施策40	スポーツを ^い 活かしたまちづくりを進めます

選手団宿泊施設としてのクルーズ船の活用検討

選手村の施設整備を行わず、ホテル等の既存施設を活用して選手団の宿泊を確保することとしています。

その中で、相当規模の宿泊拠点となる既存施設としてのクルーズ船の活用について、検討、調整を進めています。

- ◆検討内容：クルーズ船をホテルシップとし、選手団の宿泊施設として活用
 - ◆クルーズ船の規模等：3,000人程度が収容可能な船舶を想定
 - ◆停泊場所等・停泊場所：名古屋港金城ふ頭・停泊期間：20日（想定）
- （※）詳細については、現在、検討・調整中



クルーズ船イメージ

2

大会後の活用を見据えた施設整備

大会で活用する施設について、大会後も継続して大規模競技大会やイベント等の誘致・開催に対応できるようにするとともに、アスリートだけでなく、すべての市民が安心・安全・快適に利用でき、にぎわいの拠点などとなるように、その後の活用を見据えた環境整備を進めるとともに、効率的な運営に取り組みます。

○主な取り組み

瑞穂公園の整備【スポーツ市民局】

アジア・アジアパラ競技大会の開催やその後の活用を見据え、本市のスポーツ振興の拠点としての価値を高めるとともに、市民の交流・憩いの場としての機能向上を図るため、両大会のメイン会場となる陸上競技場をはじめ、瑞穂公園全体の整備を推進します。



名古屋市瑞穂公園陸上競技場
©2021 株式会社瑞穂 LOOP—PFI
※画像はイメージです。

アジア・アジアパラ競技大会会場施設の整備【スポーツ市民局】

アジア・アジアパラ競技大会の会場施設として仮決定されている施設について、大会の円滑な開催及び大会後の活用を見据え、すべての人が安心・安全・快適に利用できるような施設とするため、リニューアル改修等を実施します。



名古屋市東山公園テニスセンター
※画像はイメージです。

国際展示場の運営・整備【観光文化交流局】

MICEを推進するため、その基幹インフラとなる国際展示場を管理、運営し、競技会場として利用される第1展示館のリニューアルを契機としたさらなる多目的利用を促進するとともに、拡大し多様化するMICE活動に対応し、激化する都市間競争に打ち勝つために必要な整備を実施します。



名古屋市国際展示場

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策39	観光・ ^マ ^イ ^ス MICEの推進と情報発信により交流を促進します
施策40	スポーツを ^い 活かしたまちづくりを進めます

大会で、充実した交通ネットワークなどに支えられた快適な大会運営や災害が発生した時に被害を最小限に抑えるための安心・安全な運営体制の構築をめざします。

また、大会を契機に拡大する交流人口に対応するとともに、リニア中央新幹線の開業も見据えながら、安心・安全で快適な都市空間の形成に向けて、高い利便性や防災性、充実した危機管理体制を備えた都市機能の強化を進めます。

○主な取り組み

名古屋駅ターミナル機能の強化【住宅都市局】

大会期間中の名古屋の玄関口となる名古屋駅について、リニア中央新幹線の開業により形成される巨大交流圏の中心拠点にふさわしい交通機能と空間機能を兼ね備えたスーパーターミナルの実現のため、駅へのアクセス性の向上や交通結節機能の強化、ユニバーサルデザイン等に基づく空間形成を実施します。



名古屋駅

帰宅困難者対策等の推進【防災危機管理局・住宅都市局】

大規模な地震が発生した場合における滞在者等の安全の確保と都市機能の継続を図るため、都市再生安全確保計画及びエリア防災計画に基づき、官民連携による一体的・計画的なソフト・ハード両面の対策を実施するとともに、大雨等の影響による滞留者対策の強化を実施します。



帰宅困難者を想定した防災訓練

危機管理・国民保護に関する対応力向上【防災危機管理局】

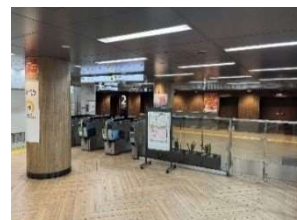
大会の運営時にも必要となる危機管理・国民保護に関する対応力向上のため、調査、検討、各種マニュアルの整備、研修及び訓練を実施するとともに、国民保護措置について市民への広報・啓発の充実を図ります。



名古屋市災害対策本部運営訓練

地下鉄駅のリニューアル【交通局】

開業後50年以上経過した地下鉄駅について、明るく清潔感のある快適・便利な駅空間とするため、壁・床・天井・照明などのリニューアルを実施するとともに、主要駅は名古屋の顔としてふさわしい駅とするため、個性化を実施します。



地下鉄駅構内

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策19	防災・減災対策を進めるとともに、地域防災力の向上を支援します
施策26	持続可能な公共交通の実現と、ウォーカブルなまちづくりを進めます
施策34	世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます

4 イノベーションの創出、先端技術の活用・普及

大会を、国内外へ先端技術を発信する場として活用するとともに、大会を契機として、域内経済のさらなる活性化や持続的な成長につなげていけるよう、先端技術の活用による社会実証を推進するほか、産業の垣根にとらわれないイノベーションの創出を促進します。

また、産業交流の場づくりを進めるとともに、さらなる産業集積を図るため、本社機能などの戦略的な企業誘致を進めます。

○主な取り組み

新たな路面公共交通システムS R Tの導入推進【住宅都市局】

アジア・アジアパラ競技大会やリニア中央新幹線の開業による交流人口の増加を見据え、都心部における回遊性の向上やにぎわいの拡大を図るため、新たな路面公共交通システムS R Tを導入します。



S R Tのイメージ

イノベーション創出・創業等支援（イノベーションを起こす環境の整備、イノベーション人材の育成、社会実証・オープンイノベーションの促進、グローバル化支援）【経済局】

アジア・アジアパラ競技大会を、交流増加の機会と捉え、産学官の連携を図りながら企業間の交流・共創を促すイノベーション拠点を運営するとともに、小中高生に対する起業家精神の醸成からスタートアップのグローバル展開まで体系的に支援するほか、社会実証支援を実施するなど、イノベーションや新事業の創出を促進します。



NAGOYA EVOLVES

産業交流の場づくりと戦略的な企業誘致の推進（産業交流の場づくり、イノベーションの基盤となる企業等の集積促進）【経済局】

大会の競技会場として利用される中小企業振興会館などの施設を整備・運営することにより、中小企業の産業交流を促進するとともに、戦略的な企業誘致によりイノベーションの基盤となる企業等の集積促進を図ります。



中小企業振興会館

○名古屋市総合計画2028における主な関連施策

施策26	持続可能な公共交通の実現と、ウォークアブルなまちづくりを進めます
施策41	イノベーションの創出を促進するとともに、産業交流を促進します

○名古屋市総合計画2028におけるまちの姿の実現に向けた主な成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2028年度)
第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会（愛知・名古屋開催）の市民認知度	48.1%	100%
イノベーション創出件数	528件	1,180件 (5か年)

NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE (ナゴヤイノベーターズガレージ)

中部圏のイノベーションハブとして、各種プログラムへの参加を通じた新たな人的ネットワーク、コミュニティの場を提供します。

また、企業の新規事業開発者、スタートアップ、起業家、起業家予備軍の方、などの「たまり場」としての共創空間を活用し、ビジネスアイデアの創出からビジネスプランのブラッシュアップまで、メンターサポートを受けて早期スケールアップを図ることができます。

産官学が連携し、スタートアップを育て、中部圏企業の変容を遂げるイノベーションエコシステムを形成していきます。



ナゴヤイノベーターズ
ガレージに関するホーム
ページはこちら



1 | 成長の原動力の柱と推進する取り組み

第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催

アジア・アジアパラ競技大会を開催する意義・目的

- ・スポーツの公平な競争を通じて、スポーツや文化、教育、国際的な尊敬、友情、平和など、さまざまな分野の振興・促進に寄与
- ・アジア最大の国際スポーツ・パラスポーツ大会
- ・大会期間中、多くの観客や大会関係者がこの地域を来訪

大会を取り巻く状況の変化

- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催
- ・開催決定後における国際情勢の変化、物価の高騰

- 大会の質を保ちつつ経費の抑制を図り、簡素で合理的・機能的な大会に
- 両大会を一過性のスポーツイベントで終わらせるのではなく、大会の開催効果を、スポーツの振興をはじめ、交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化など、さまざまな分野にレガシーとしてつなげていくことが必要

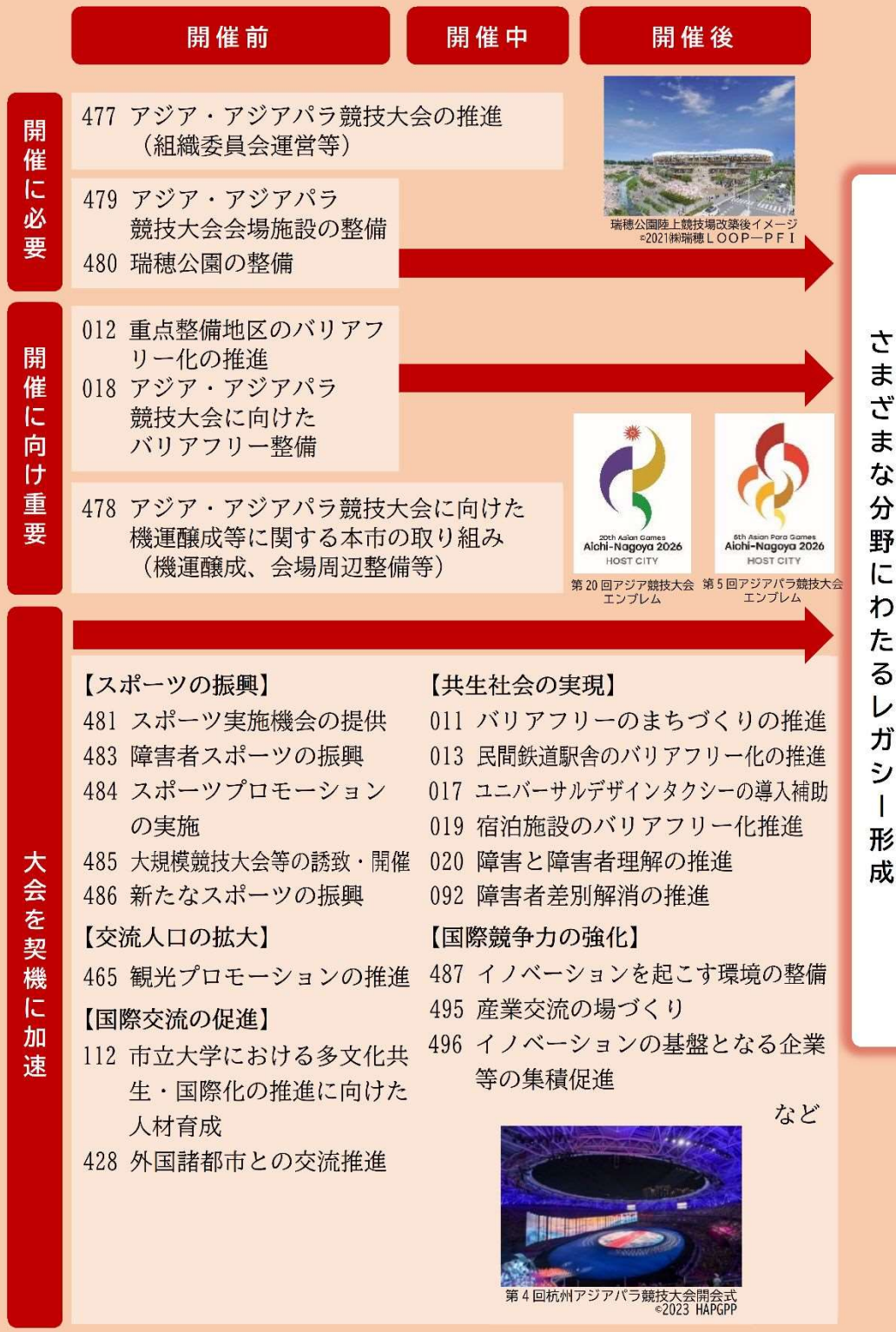
■ 「2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン」
～大会を契機としてめざすまちの姿～



本市をあらゆる面でバージョンアップし、
市民のより豊かな生活の実現につなげる

※名古屋市総合計画2028の全506事業から本ビジョンのめざすまちの姿に寄与する事業を大会関係事業として設定し、代表的な51事業を本ビジョンに掲載しています。

アジア・アジアパラ競技大会に関連する主な事業



さまざまな分野にわたるレガシー形成

QRコード
10月下旬
掲載予定

【出典：名古屋市総合計画2028】

2 | 「開催に必要」及び「開催に向け重要」な事業の主な取り組み

まちの姿 1 健康・地域活力

トップアスリートによる学校・地域訪問

トップアスリートが学校や地域を訪問し、大会の紹介や自身の国際大会での経験談など。トップアスリートとの交流を実施します。



トップアスリートによる学校訪問

市の広報ツールによる機運醸成の実施

広報なごやにおいて両大会に関係する特集記事を連載することで、幅広い方々にスポーツに興味を持っていただくとともに、市公式ウェブサイトやテレビ、ラジオ、SNSなど、市の広報ツールを最大限活用し、大会の認知度向上に向けて広く大会の魅力を発信します。



広報なごや特集ページ

まちの姿 2 魅力・誇り

選手間交流事業

大会に参加する選手を含めた大会関係者を、愛知・名古屋の象徴的な場所へ招待し、大会関係者が交流できる機会を提供します。

文化プログラム事業

大会を契機に愛知・名古屋へ訪れる人を対象に、アジア、日本、愛知・名古屋の歴史、文化芸術、自然環境、産業といった様々な資源を紹介する文化プログラムを実施します。

まちの姿 3 国際交流・多様性

教育現場への展開

大会への興味喚起や国際理解をテーマとした学習教材を作成し、小中学校等の授業において活用することに加え、言語や文化が異なる人々や障害を抱えた人々との交流の機会を充実します。

Aichi-Nagoya 2026 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

障害の有無に関わらず、すべての人々が大会に向けてアクセスできるアクセシビリティを確保するための環境整備を図ることで、多様性を尊重し合う共生社会の実現に貢献するため、令和5年12月に策定しました。

まちの姿 4 イノベーション・持続可能性

SDGs推進プラットフォーム分科会での取り組み

SDGs推進プラットフォームの「アジア・アジアパラ競技大会を盛り上げる」分科会において、参画する会員や大学生とともに大会の機運醸成と認知度向上を図ることで、大会を通じたSDGsの推進を目指します。

1 | アジア競技大会・アジアパラ競技大会とは

（1）アジア競技大会とは

アジア競技大会は、第2次世界大戦後まだ間もない1951年、戦禍によって引き裂かれたアジア諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて、インドのネルー初代首相の提唱により、日本を含む11か国の参加のもと、第1回大会がニューデリーで開催されました。

現在は、アジアのオリンピック・ムーブメントを推進するアジア・オリンピック評議会（OCA）が、原則4年に1回開催しており、スポーツの公平な競争を通じて、スポーツ、文化、教育、国際的な尊敬、友情や平和など、様々な分野の振興・促進に寄与する一大イベントとなっています。

■ 過去大会実績の抜粋及び今後の大会開催予定

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	1951年	ニューデリー	インド	11	489人
3	1958年	東京	日本	16	1,820人
～					
12	1994年	広島	日本	42	6,828人
～					
16	2010年	広州	中国	45	9,704人
17	2014年	仁川	韓国	45	9,501人
18	2018年	ジャカルタ・パレンバン	インドネシア	45	11,300人
19	2023年	杭州	中国	45	11,831人
20	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—
21	2030年	ドーハ	カタール	—	—
22	2034年	リヤド	サウジアラビア	—	—

（2）アジアパラ競技大会とは

アジアパラ競技大会は、1975年より9回開催した「極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）」の実績を引き継ぎ「アジアパラ競技大会」として、2010年第1回大会が中国の広州で開催されました。

アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進と競技スポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障害者総合スポーツ大会です。

国際パラリンピック委員会（IPC）の地域委員会であるアジアパラリンピック委員会（APC）が主催し、原則4年に一度開催しており、日本での開催は、初めてとなります。

■ 過去大会実績及び今後の大会開催予定

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	2010年	広州	中国	41	2,289人
2	2014年	仁川	韓国	41	2,497人
3	2018年	ジャカルタ	インドネシア	43	2,888人
4	2023年	杭州	中国	44	約3,100人
5	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—

2 | 愛知・名古屋大会の概要

(1) 第20回アジア競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】 第20回アジア競技大会 (2026/愛知・名古屋) 【英語】 20th Asian Games Aichi-Nagoya 2026
会 期	令和 8 (2026) 年 9 月19日～10月 4 日 16日間
開 催 都 市	愛知県・名古屋市
実 施 競 技	41 競技
メ イ ン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団 (選手、チーム役員) 最大15,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献

○アジア競技大会 大会エンブレム、公式マスコット「ホノホン / HONOHON」、
大会スローガン



IMAGINE ONE ASIA
ここで、ひとつに。

(2) 第5回アジアパラ競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】 愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会 【英語】 Aichi-Nagoya 2026 Asian Para Games
会 期	令和 8 (2026) 年10月18日～10月24日 7日間
開 催 都 市	愛知県・名古屋市
実 施 競 技	18 競技
メ イ ン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団 (選手、チーム役員) 3,600～4,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジアパラ競技大会の開催を誇りに、更なるスポーツ文化の普及へ貢献 ◆共生社会の実現

○アジア競技大会 大会エンブレム、公式マスコット「〇〇〇〇/△△△△△△△」、
大会スローガン



公式マス
コット
予定

IMAGINE ONE HEART
こころを、ひとつに。

(3) 主な開催効果

大会の開催により、さまざまな効果が全国にもたらされると考えられており、経済波及効果は、愛知県内で 1 兆 900 億円、全国で 1 兆 9,395 億円になると試算しています。



◆経済波及効果の前提

需要増加額（対象地域に新たに発生した需要の増加額）の推計

- ・直接的効果 1,692億円
愛知・名古屋大会の開催に直接的に関わる投資・支出により発生する需要増加額を推計
- ・レガシー効果 7,519億円
大会のレガシーを見据えて実施される愛知県内での取組みを抽出し、各施策の指標等を参考に需要増加額を推計

経済波及効果

単位：億円

項 目	生産誘発額		粗付加価値誘発額		雇用者所得誘発額	
	愛知県	全 国	愛知県	全 国	愛知県	全 国
直接的効果	1,975	3,670	1,113	1,939	563	1,037
レガシー効果	8,926	15,724	5,172	8,597	2,470	4,429
合計	10,900	19,395	6,285	10,536	3,032	5,466

※億円単位で四捨五入しているため、表の合計金額と各項目を合計した金額が一致しない場合がある。

※分析対象期間は、2016年（アジア競技大会招致決定）から2036年（大会10年後）まで
※試算にあたり、算定時点における大会開催内容の想定を基に、2015年産業連関表及び雇用表を利用して、第2次間接波及効果までを試算

【令和4年7月公表 愛知県及び名古屋市による調査による】

用語	頁	解説
あ行		
I o T	23	Internet of Thingsの略。モノのインターネット。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。
あいサポート運動	18	誰もがさまざまな障害の特性などを理解して、障害のある人に対してちょっとした手助けや配慮などを実践することで障害のある人が暮らしやすい社会をすべての市民で一緒につくっていくことを目的とした運動。
アクティブライフ	5,6	運動・スポーツのほか、レジャー、家事や階段の昇り降りなど日常生活における身体活動を通じて体を動かし、気軽に楽しく活動的な生活を送るライフスタイル。
アジア・オリンピック評議会	28	アジア競技大会の主催者。クウェートに本部を置く。2019年4月現在、45の国や地域のオリンピック委員会が加盟。略称はO C A。
イノベーション	19,24	従来の考え方にとらわれない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。
インバウンド	9,14,28	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
A I（人工知能）	24,30	Artificial Intelligenceの略。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。
S R T	24	Smart Roadway Transitの略。技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート（Smart）さを備え、路面（Roadway）を走ることで歩道の円滑性やにぎわいを生み出す、今までにない新しい移動手段（Transit）の呼称。
オリンピック・ムーブメント	25	オリンピックとオリンピックの価値によって実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い世界の構築に貢献すること。なお、オリンピックとは、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するもの。
か行		
外国人市民	18	名古屋市内に住所を有する外国籍の人のほか、日本国籍を取得した人や国際結婚によって生まれた子どもなど外国の文化を背景に持つ人など、外国にルーツを持つ人。
外国人住民	28	名古屋市内に住所を有する外国籍の人。
グリーンインフラ	20	自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、さまざまな効果を得ようとする取り組み。
グローバル	15,17,24,28	世界的な規模。国境を越えて地球全体にかかわること。人、物財、情報の国際的移動が活性化して、さまざまな分野で「国境」の意義が曖昧になるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象。
経済波及効果	26	ある産業に需要（消費や投資等）が発生したとき、その産業の生産を誘発するとともに、次々と他産業の生産も誘発していく経済活動の波及のこと。
健康寿命	6,8	本ビジョンでは、介護保険の情報に基づく「日常生活動作が自立している期間」とする。
交流人口	1,14,19,23,26,27,28	国内外からの旅行者や短期滞在者など、その地域を訪れる人のこと。

用語	頁	解説
さ行		
再生可能エネルギー	19,20	永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなどをエネルギー源として利用することを指す。
3 R	20	「Reduce＝リデュース（発生抑制）」「Reuse＝リユース（再利用）」「Recycle＝リサイクル（再生利用）」の3つの頭文字をとった言葉で、ごみ減量のために必要な取り組みを表す。
循環型都市	20	本市がめざす環境都市像の1つであり、「廃棄物などの発生抑制や資源の循環活用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち」をいう。
スポーツコンベンション	10	スポーツ大会のこと。
スポーツツーリズム	10	スポーツを「みる」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流など、複合的で豊かな旅行スタイルの創造をめざすもの。
スポーツプロモーション	10	スポーツの普及・促進、発展。
た行		
ダイバーシティ	26,28	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
低炭素都市	20	本市がめざす環境都市像の1つであり、「自然エネルギーなどの利用が促進され、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進むなど、少ないエネルギー消費で快適な生活ができるまち」をいう。
な行		
名古屋市ファミリーシップ制度	18	互いを人生のパートナーとし、日常生活において、対等な立場で継続的な共同生活を行っている又は行うことを約したお2人が市に宣誓し、市が宣誓書受領証等を交付するもの。
名古屋大都市圏	24,28,30	本ビジョンでは、名古屋を中心におおむね30～50kmの範囲としつつ、産業、観光、防災など分野ごとに柔軟に捉えることとする。
燃料電池自動車	20	水素と酸素を化学反応させて電気をつくる燃料電池を動力源とし、走行中に排気するのは水だけの、環境や資源に負担をかけない自動車のこと。
は行		
ホスピタリティ	9	本ビジョンでは、「地元の人々が旅行者を迎え入れる際に有するおもてなしの心」とする。
ら行		
リニア中央新幹線	1,19,23,24	全国新幹線鉄道整備法に基づいて計画された、東京都を起点、大阪府を終点とする新幹線鉄道。平成23年5月に決定された整備計画において、走行方式は超電導磁気浮上方式（超電導リニア）とし、最高速度は505キロメートル／時とすることが定められた。

1 | 主な経緯

	日付	事項	備考
平成30年度	6月4日	第1回有識者懇談会	大会を契機として本市がめざすべきものについて意見交換
	11月15日	第2回有識者懇談会	まちの姿を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について意見交換
	1月21日	第3回有識者懇談会	まちの姿と取り組みの方向性について意見交換
	2月7日	学生意見交換会	大会を契機として本市がめざすべきまちの姿とその実現方法について意見交換
	3月18日	第4回有識者懇談会	中間案（素案）について意見交換
令和元年度	4月22日	第5回有識者懇談会	ビジョン案（素案）について意見交換
	6月5・6日	所管事務調査 （2026アジア競技大会 NAGOYAビジョン（案）について）	都市活力向上特別委員会（6月5日） 総務環境委員会（6月6日）
	7月1日から 31日まで	パブリックコメント実施	—
	9月2日	市民のご意見及び市の考え方 公表	—

<学生意見交換会概要>

日 時：平成31年2月7日（木）13時～15時30分

場 所：名城大学ナゴヤドームキャンパス西館2階 社会連携センターshake

参加者：県内6大学の学生23名

内 容：大会を契機として「将来の名古屋がどんなまちになってほしいか」をテーマに
意見交換

2 | 第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会

<開催概要>

回	開催日程	議題内容
第1回	平成30年6月4日(月) 16時30分～17時30分	アジア競技大会を契機として本市がめざすべきものについて
第2回	平成30年11月15日(木) 10時～12時	ビジョンにおける「まちの姿」を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について
第3回	平成31年1月21日(月) 13時～14時30分	「まちの姿」及び取り組みの方向性について、委員の追加について
第4回	平成31年3月18日(月) 13時～15時	名古屋市レガシー・ビジョン（仮称）中間案（素案）について
第5回	平成31年4月22日(月) 9時30分～11時30分	名古屋市レガシー・ビジョン案（素案）について

<委員名簿>

（敬称略 50音順）

氏 名	分 野	役 職 等
板倉 健（いたくら けん）	経 済	名古屋市立大学経済学研究科教授
岡田 亜弥（おかだ あや）	国際/多文化共生	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
奥宮 正哉（おくみや まさや）	環 境	名古屋大学大学院環境学研究科教授
◎原田 宗彦（はらだ むねひこ）	スポーツマネジメント	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
福島 茂（ふくしま しげる）	まちづくり	名城大学都市情報学部教授
藤原 直子（ふじわら なおこ）	多 様 性	椋山女学園大学人間関係学部教授
松村 亜矢子（まつむら あやこ）	健康とスポーツ	中部大学生命健康科学部講師
矢野 卓真（やの たくま）	産 業 技 術	名古屋工業大学産学官金連携機構准教授
○来田 享子（らいだ きょうこ）	スポーツと教育	中京大学スポーツ科学部教授

◎：座長、○：副座長

3 | パブリックコメント

<実施概要>

(1) 募集期間

令和元年7月1日（月）から31日（水）まで

(2) 閲覧・配布場所

ア 本冊子

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館などにおいて閲覧用に配架

イ 概要版

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館、地下鉄各駅などにおいて配布

(3) 提出状況

意見提出者数 7人（FAX 4人、郵送 2人、メール 1人）

意見件数 13件

(4) 意見の内訳

項 目	意見件数
第20回アジア競技大会に関すること	1件
まちの姿1 健康・地域活力に関すること	6件
まちの姿2 魅力・誇りに関すること	4件
まちの姿3 国際交流・多様性に関すること	1件
まちの姿4 イノベーション・持続可能性に関すること	1件
合 計	13件

1 | 改訂の趣旨

令和元年に策定した本ビジョンは、「名古屋市総合計画 2023」と整合を図りながら、大会終了後の 2030 年頃のめざすまちの姿を明らかにするために策定しました、大会まで残り2年と迫る中で、次期総合計画である「名古屋市総合計画 2028」の策定されたことや第5回アジアパラ競技大会の開催決定がされたことなどに伴い、一部改訂を行うもの。

2 | 主な経緯

日付	事項	備考
令和6年9月11日	第1回有識者懇談会	2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン案（素案）について意見交換

<障害者団体連絡会概要>

日 時：令和6年8月23日（金）9時30分～12時

場 所：名古屋市役所西庁舎 12階 西12E会議室

参加者：市内12団体

内 容：「2026アジア競技大会NAGOYAビジョンの改訂について」を説明し、意見聴取

3 | 2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン有識者懇談会

<開催概要>

回	開催日程	議題内容
第1回	令和6年9月11日(水) 10時00分～12時00分	2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョン案（素案）について意見交換

<委員名簿>

（敬称略 50音順）

氏 名	分 野	役 職 等
板倉 健（いたくら けん）	経 済	名古屋市立大学大学院経済学研究科教授
岡田 亜弥（おかだ あや）	国際/多文化共生	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
奥宮 正哉（おくみや まさや）	環 境	名古屋産業科学研究所上席研究員
◎原田 宗彦（はらだ むねひこ）	スポーツマネジメント	大阪体育大学学長
福島 茂（ふくしま しげる）	まちづくり	名城大学都市情報学部教授
藤原 直子（ふじわら なおこ）	多 様 性	椋山女学園大学人間関係学部教授
松村 亜矢子（まつむら あやこ）	健康とスポーツ	中部大学創造的リベラルアーツセンター准教授
矢野 卓真（やの たくま）	産 業 技 術	名古屋工業大学産学官金連携機構准教授
來田 享子（らいた きょうこ）	スポーツと教育	中京大学スポーツ科学部教授

◎：座長

2026
アジア・アジアパラ競技大会
NAGOYAビジョン
—— アジアとともに輝く未来へ ——

発行・編集 名古屋市総務局
アジア・アジアパラ競技大会推進部
アジア・アジアパラ競技大会推進課
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2231
FAX 052-972-4205

発行年月 令和元年10月
改訂年月 令和6年10月

アジア・アジアパラ
競技大会推進課
ホームページはこちら

